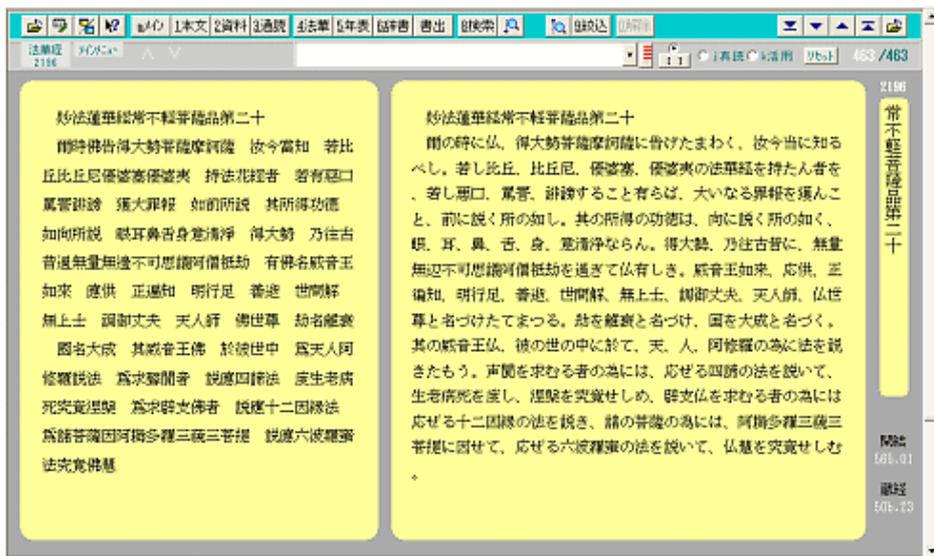


法華経通読フォーム画面

各部の構成	
① 「法華経画面切り替え」ボタン	② 「書き出し」ボタン
③ 「検索」ボタン	④ 品名欄
⑤ 検索・校込条件選択トルボタン	⑥ 法華経No.欄
⑦ 法華経対照欄	⑧ 訓読欄
⑨ 真読欄	

法華経本文のデータを基礎に、スペースを大きく取り、通読しやすいようにした画面です。真読は大正大蔵経に依り、訓読は大石寺版開結の真読を改めて訓読したものです。機能は、法華経フォーム画面とほぼ同じです。

※法華経通読フォーム画面には、横書きフォームも用意されています。お好みの画面でご使用下さい。画面の切り替えは  をクリックします。



法華経の横書きフォーム画面

《法華経通読フォーム画面専用機能》

- ① **法華** (法華経画面切り替え) ボタン……法華経本文画面と法華経通読画面を切り替えます。
- ② **書出** (書き出し) ボタン……法華経全部もしくは品単位で書き出しができます。
- ③ **検索** (検索) ボタン……入力枠に何も入力しないで **検索** をクリックすると品名一覧が表示され、各品に移動できます。

妙法蓮華経品目次	
無量壽経徳行品第一	
無量壽経説法品第二	
無量壽経十功德品第三	
序品第一	從地涌出品第十五
方便品第二	如來寿量品第十六
譬喻品第三	分別功德品第十七
信解品第四	隨喜功德品第十八
藥師品第五	法師功德品第十九
授記品第六	常不輕菩薩品第二十
化城喻品第七	如來神力品第二十一
五百弟子受記品第八	嘱累品第二十二
授学無学人記品第九	藥王菩薩本事品第二十三
法師品第十	妙音菩薩品第二十四
見宝塔品第十一	觀世音菩薩普門品第二十五
提婆達多品第十二	陀羅尼品第二十六
勸持品第十三	妙莊嚴王本事品第二十七
安樂行品第十四	普賢菩薩勸発品第二十八
	觀音菩薩普薩行法經

- ④ **品名欄**……現在表示されている法華経の品名を表示します。

⑤検索・絞込条件選択トグルボタン……法華經真読の[蔵經真読]を対象の場合は「j」文字を、真読の[真読活用]を対象の場合は「k」文字を付けて入力してください。（「法華經」フォーム画面と違って訓読（[開結訓読]）を指定することはできません。）

j真読 k活用

⑥法華經No.欄……法華經データの通し番号です。

2196

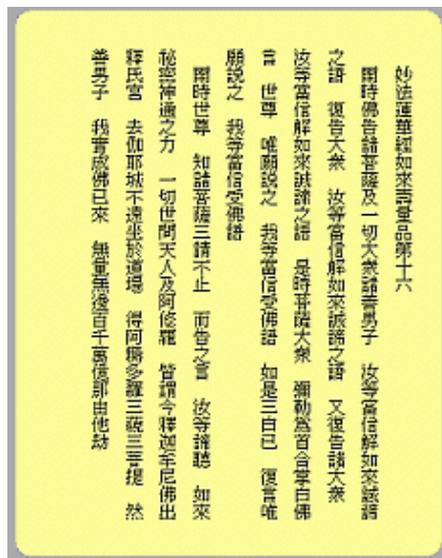
⑦法華經対照欄……現在表示の大正蔵經（下段）、および大石寺版（訓読）の頁・段・行数を表示します。

開結
565.01
蔵經
50b.23

⑧訓読欄……大石寺蔵版「妙法蓮華經並開結」を表示します。

妙法蓮華經如來弁童品第十六
 爾の時に仏、諸の菩薩、及び一切の大衆に告げたく、諸の善男子、汝等當に如來の談語の語を信解すべし。復大衆につけたまわく、汝等當に、如來の談語の語を信解すべし。又復、諸の大衆に告げたまわく、汝等當に、如來の談語の語を信解すべし。是の時に普賢大衆、發勸を言と爲して、合掌して仏に白して言さく、世尊、唯願わくは之を説きたまへ。我等當に、仏の語を信受したてまつるべし。是の如く三たび白し已って、復言さく、唯願わくは之を説きたまへ。我等當に、仏の語を信受したてまつるべしと。
 [爾の時に世尊、諸の菩薩の、三たび請じて止まざることを知しめして、之に告げて言わく、汝等當に信解、如來の秘密神通の力を。]一切世間の天、人、及び阿修羅は皆今の釈迦牟尼仏、親氏の宮を出でて、伽耶城を去ること遠からず、道場に坐して、阿耨多羅三藐三菩提を得たまえりと請えり。然るに善男子、我共に成仏してより已來、無量無辺百千萬億那由他劫なり。

⑨真読欄……大正新修大蔵經第9冊所収の「妙法蓮華經」を表示します。



《法華經通読フォーム画面への移動》

法華經通読フォーム画面への移動は、メインメニューの **4.法華經**、または **4法華** のある各フォーム画面上から、それらをクリックして移動した際、表示されたフォームが法華經フォーム画面であれば、さらに  をクリックして移動します。

《「法華經」とのリンク》

真読・訓読の本文をドラッグして **4法華** をクリックすると、「法華經」フォーム画面のそれぞれ該当する真読・訓読の箇所へリンクします。【】印を付けるようにしておけば一目瞭然です。(ドラッグしないでただ **4法華** をクリックすると、頁の先頭の經文本文を含む行に進みます。)

《御書本文・御書通読とのリンク》

同様に真読・訓読の本文をドラッグして **1本文** **3通読** をクリックすると、御書にその經文が引かれている場合は、その引用されている[システム版御書]の箇所へリンクします。引用されてない場合は、引用されてなくても御書に進むか(この場合の御書の位置は直前に作業をした位置)、現法華通読フォーム画面に止まるかを尋ねてきます。

※字体・表記の違いは、システムが判断

上記のとき、真読をドラッグした場合は正字・異体字を含むこととなりますが、字体の違いはシステムが吸収して処理するので気にする必要はありません。また真読と訓読で多少内容の違いもありますが、それもほぼ吸収するようにしてありますので、どちらをドラッグしても目指す[システム版御書]へリンクされます。

《法華經通読フォーム画面での検索・絞込》

法華經通読フォーム画面での検索・絞込の詳細は、
[「主な機能別使い方\(調べる\)」](#)→[「F、法華經の一文を探し出す」](#)
をご覧ください。

《法華經フォーム画面での書き出し》

法華經全部もしくは品単位で書き出しができます。法華經フォーム画面での、書き出しの詳細は、

[「主な機能別使い方\(書き出す\)」→「C、法華経の書き出し」](#)

をご覧ください。

[▲このページの先頭に戻る](#)

[戻る\(法華経\)](#) [画面選択](#) [次へ\(年表\)](#)